

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 8月 30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471100986		
法人名	(株) アーバン・ケア		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	広島県尾道市高須町4834-6 (電話) 0848 (55) 1355		
自己評価作成日	令和2年7月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471100986-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年8月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

東尾道公園に面し、いつも子供の明るい声が聞こえる環境で、気候の良い時期は、公園に散歩に出かけ、地域の人と触れ合いを持つことができる。又、ホームの五分圏内に、色々なお店が立ち並び買物しやすい環境でもある。日常ではボランティアに協力して頂いたり 毎月の行事を行い季節感と刺激のある生活を維持している。特に遠足や夏祭り等はご家族にも参加して頂き 御家族との繋がりも意識した取り組みもしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

尾道市で2番目に開設したグループホームで地域とのつながりは深く、現在はコロナ禍で難しい状況もあるが、事業所の行事に地域のボランティアの方が来られたり、近隣の保育園との交流会、地域の祭り、とんど等への利用者の参加もあり積極的に地域交流を図っている。外出支援についても日常の散歩、買物、外食、ドライブ、家族参加の遠足など日々楽しめるように柔軟に取り組みを行っている。看取りを希望される家族が多く、現在利用者を担当する3箇所の医療機関とも看取り可能で、24時間連絡体制もとれ、医師、家族、職員で連携を図りながら安心して最期を迎えられるよう事業所で看取り支援を行っている。食事は3食とも手作りで、季節により家庭菜園での野菜も使用しており、利用者の希望も取り入れ、ユニットごとに献立も違い、好評を得ている。

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づき、管理者・スタッフとも、思いを共有しつつ、日々の介護にあたっている。毎月の職員会議での話し合いで目標や課題を共有している。	事業所の基本理念は玄関ホールに掲示してあり、職員は理解、周知した上で支援を行っている。理念に基づき年間目標を決めており、進捗状況について毎月の職員会議で評価、振り返りを行い、日々の業務、利用者の関わりの中で活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣の公園への散歩を積極的に行い、公園の利用者の皆様とお話をする機会を多く持っている。	地域とのつながりは深く、事業所の行事に大道芸、大正琴などのボランティアが来られたり、定期的に保育園の園児との交流会の実施、地域の祭り、とんどに利用者が参加するなどがある。また、地域の店での買い物や公園での散歩を通じて、近所の人との挨拶や会話を交わすなど日常的に交流する機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	家族会等で自治会の方に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の時に議題として取り上げ、話し合いをし、サービス向上の貴重な意見として活かしている。	運営推進会議では、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等の参加があり、活発な意見を交わしている。会議で挙げた意見で門扉の設置や家族参加の外出計画、地域の行事の参加等多くの事例がある。会議での意見を運営に取り入れ、サービス向上につなげている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	高齢者福祉課には、頻繁に電話や直接出向くなどして、色々と相談し指導いただいている。	高齢者福祉課とは日頃から密に連携をとっており、事故報告等を伝えたり、コロナ禍での事業所の対応について相談に行き助言を頂くこともある。地域包括支援センターとは、運営推進会議の参加で事業所の現状報告や入所申し込みの相談もあり、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員は身体拘束の禁止、又その対象となる具体的な行為は施設内研修や職員会議などで周知徹底している。</p>	<p>身体拘束廃止の指針に基づき、身体拘束委員会の開催、定期的な研修会を定期的に行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員間で身体拘束について正しい理解をしており、実践につなげている。転倒などのリスクのある利用者については、職員間で話し合い、ケアの工夫等によって対応を行なっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止法について職員会議での話し合いを行い徹底している。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>家族・地域の方にも案内し、権利擁護について詳しい方(講師)をお呼びして勉強会を開いた。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書に添って説明し、その場で理解納得していただくようになっている。十分説明を行った上で、納得の上承諾書も頂いている。</p>	/	/
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>御意見箱を設け御家族が言いにくい御意見が聞けるようにしている。又面会時にも御家族の思いを聞けるよう努力している。</p>	<p>運営推進会議と兼ねて家族会を行っており、会議の中で意見を頂いたり、面会時に話を伺っている。家族の意見により、職員の写真・名前を玄関ホールへの掲示や散歩の機会を増やす等の例がある。利用者については日常の中から思いを汲み取り、運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は積極的に職員との話し合いをし提案を反映している。	取締役、管理者等日頃から職員と対話し、必要に応じて個別面談を行っている。職員の意見により、移乗方法の勉強のため理学療法士を招いて、研修会を開催したことや、外出の企画等々ある。職員の声に耳を傾け、運営に反映させる体制に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議や日頃の会話等から、職員の考えや思いを把握し、安心して勤務できるような環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部から理学療法士を招き介護技術とその知識を得る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	アーバンケア内の施設との交流により職員間の交流や施設内のサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき話しあっている。		

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居決定までには来所又は電話により、家族が納得できるまで相談窓口を作り、不安を抱えたまま契約にならないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホームを家族が希望しても、面談をしてみても、入所より在宅が適当であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共ににし、日々の話の中で人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者ご家族とスタッフは家族的雰囲気何でも話し合える関係作りが出来ている。又必要な方は携帯電話を利用して頂き御家族との連携を保っている。遠方の御家族には月報や電話で状況を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親しい方との面接や電話なども自由に行うことができるように支援している。囲碁のサークルに参加したりサークル仲間の方がほぼ毎日来て下さる方もいる。(コロナウイルスが落ち着くまでは自粛しております。)又時にはドライブで自宅の近所に行くなどしている。	本人、家族から情報を伺うとともに、生活歴を紐解き、入居前につながるのあった人の把握をしている。面会も、家族だけでなく、サークルの人や知人なども来られている。家族によるお盆の時期などに自宅への外出、外泊もあり、馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>一人一人が孤立しないようリビングの席並びなど、何度も検討を重ね、入居者同士のトラブルを避け、楽しく過ごせるような椅子の配置にしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>契約終了された方の家族よりボランティアの申し出がある等、関わりは継続している。</p>		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いやりや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>希望・意向の把握に努めようと努力しているが、なかなか思いをくみ取ってあげることが出来ない方もおり、検討課題である。</p>	<p>職員は利用者の担当をそれぞれにもち、利用者の思いや意向を細目に把握できるように関わっている。毎年10月に本人の思いを叶える期間を設け、家族の協力のもと外出を行ったり、幼稚園の園長だった利用者の職歴に応じた取り組みを事業所内で行うなど、利用者個々の希望、思いを大切にしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>生活環境を極力変えたくない為、馴染みの物を居室に入れたり、生活歴についても聞き、対応に活かしている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>個々の心身状態に合わせ入居者のペースに合わせた生活を支援しているが、まだまだ有する力を全員が発揮できていない現状だが、残存機能を生かした支援を心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングを基本に家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聞き取る事が難しい方もおられ、日々の対応で知り得た情報より、思いを酌んでの介護計画となっている方もおられる。</p>	<p>担当職員が利用者の状態についてモニタリングし、本人、家族の意向に基づき介護計画作成者が介護計画を作成している。利用者のできる部分を記載する独自の様式があり、本人の強みを介護計画に取り込めるようになっている。現状に即した介護計画の作成をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しに活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その方の身体状況・精神状態等に応じ、家族や入居者のニーズには出来る限り協力体制を取っている。(囲碁教室に通うなど)</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員・ボランティア、警察・消防には認知症対応ということで、緊急事態の為にリスト作りをして頂き協力体制を作っていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>内科・皮膚科・歯科の往診もあり、受診に行くことが難しい方も適切な医療体制で臨んでいる。</p>	<p>本人、家族の希望に応じ入居前の病院から継続している利用者が殆どである。内科は2週間に1回、皮膚科は1ヶ月に1回、歯科も希望時に往診がある。受診の場合は家族だけでなく、事業所で送迎、付き添うこともあり安心して医療を受けられる体制が整っている。利用者の状態に変化があれば、家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化にも状況により訪問相談等、24時間体制で連絡がとれる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院3ヶ月までは退居の必要はなく安心して過ごして頂ける。それ以上の入院の場合については早期退院に向けての情報交換等、医療機関と話し合いを持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の希望で看取りまでケアしている。家族と密に連絡を取り、家族もために面会に来られている。重症化した場合、終末期については主治医と施設・家族で話し合いを持ち三者で連携を保ち、方向性を同じくしている。	事業所で看取りを希望される家族が多く、現在利用者を担当している3箇所の医療機関は看取り可能で、24時間連絡体制もとれる。主治医、家族、職員で連携を図り、方向性やより良いケアができるよう話し合い、実践している。家族が泊まれるよう簡易ベッドもあり、安らかに最期を迎えられる支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故に備えて緊急マニュアルをスタッフルームに掲示、それに従い落ち着いて対応するように伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの作成、消防計画による任務等の役割分担を明確にし、年二回の避難訓練を実施しているが、地域を交えての訓練はできていない。	消防署の協力のもと年2回避難訓練を実施しており、地域の保育園との合同訓練も検討中である。実際に大雨の際、事業所内で垂直移動したことや過去断水等の経験で対応したこともあり、災害対策についての意識を高く持っている。有事に備え水、米、レトルト食品等を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報には外に漏らさないことを徹底している。入居者に対しては人として尊敬の念を忘れず、言葉かけや対応に配慮しているが、完璧とは言えず、カンファレンス等で、スタッフに向けて、注意している。	事業所内の研修や処遇等についてのアンケートを年1回行い、全職員が振り返る機会があり、適切な言葉かけや対応がとれるようにしている。プライバシーの確保については、居室の扉を閉めておくなど、入居者の気持ちを基本に考え取り組んでいる。守秘義務については、入職時に誓約書をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活における希望等を尋ねたり、自己決定の出来る場を設けるなど考慮しているが、自分の思い・希望を表出することが出来にくい方もおられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・就寝時間・その他日常の活動についてもまず声かけにより入居者の意思を確認し介助するように心がけているが、時間に限りがあり職員主導になりがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思決定ができる方は化粧品等一緒に買い物などしているが、自己決定できない方は利用者の好みなど職員が把握するようにし支援している。又理容について2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器拭きなどは手分けして職員と共に行い定着している。又食事中も会話が弾むよう職員が中に入ったり仲の良い利用者同士を同じ席にするようにしている。	3食とも職員の手作りで提供し、事業所の家庭菜園で収穫した旬の野菜を使用することもある。食事の準備や後片付けも利用者の能力を活かしながら行っている。各ユニットは別棟立で利用者の希望を加えながら柔軟に対応している。おやつづくりや外食もあり、食事を楽しむことのできる支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の嗜好、食事量を把握し、配膳に工夫している。歯の状態、嚥下の難しい人には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は、食事以外の時にも、度々機会をつくり、水分量の確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来る所は自力で、出来ない所を援助する。義歯は就寝前に洗浄液につけ清潔を保つ。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人のパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。一人一人の能力に応じて介助を行っている。</p>	<p>排泄の記録をもとに利用者の排泄パターンを把握し、個別支援を行っている。日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間ポータブルトイレを使用する利用者もいる。本人の残存能力を活かした取り組みにより、紙パンツから布パンツに移行した利用者も多くおり、自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操・レクリエーション・散歩により身体を動かす事、食事時、食間、入浴後の水分補給を心がける。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上で、トイレ誘導をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個々の曜日は決めていないが、時間帯はほぼ決まっている。入浴時は職員との会話を楽しんでいる。</p>	<p>入浴は基本的に週2回実施しているが、失禁があれば追加で入られることもある。利用者の好みに応じ入浴の順番を考慮したり、入浴時間もゆっくり浸かるなど柔軟に対応している。1階のユニットの浴室にはリフト浴があり、重度化しても入浴ができるよう設備を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>睡眠パターンについては、職員 の方ではほぼ把握出来ている。 昼夜逆転の傾向の人やその他夜 間の様子については申し送り等 で職員間で情報を共有、カン ファレンスで話し合い、日中の あり方を検討し配慮する。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>処方箋に目を通し、把握してお く。服薬時は日にちと名前を職 員2名で確認をし、誤薬の無い ように徹底している。又ノート を作成し主治医に体調の変化の 報告をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。</p>	<p>レクリエーション、散歩等、声 を出したり笑ったり身体を動か したりという活動を日課の中に 取り入れるよう心がけている。 又、洗濯物の手伝い、食後の 片付け等個々の役割を決めてい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	<p>向かいの公園へ数人に分かれて 出かけている。希望者には近く のお店に買い物に行ったり、ド ライブに行ったりするが、行け る人が限られ、家族や地域の人 に協力を得る事はできていない 。</p>	<p>利用者の意向に応じ、公園での 散歩や買物、ドライブ、外食な どを行っている。バスを借りて の遠足では家族も同行され、好 評である。生活に変化を持ち、 楽しみが持てるように様々な外 出を計画している。家族による 自宅への外出、外泊もあり日常 的な外出支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>お金の所持に関しては、トラブ ルの元になるので、入所時から お断りしている。しかし買い物 の楽しみを味わっていただく 為に施設内でお店を開き、お 金を使う事の支援を行っている 。</p>		

自己評価	外部評価	項目(そらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話は自由に使っている。個人的に携帯電話を預かったり、手紙のやり取りのお手伝いもしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>天候の良いときはなるべく自然の光や風が取り入れられるよう心がけている。リビングはいつも季節感を感じられるよう配慮している。又行事やイベントの写真を貼ったりビデオを見たりして思い出を会話に繋げている。</p>	<p>利用者と一緒に作った壁面など作品を貼ったり、季節感の感じられる物を飾り、彩りを感じることができる。また、リビングは広めに配置され畳コーナー、1階にはウッドデッキもあり、くつろいで過ごせる共有空間である。現在はコロナ禍の対応で横並びの席にしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ほとんどの方が日中は、リビングやソファで過ごされているが、お部屋で過ごしたい方は、自由に一人の時間を楽しんでいる。友達関係の出来た方は、隣同士になれるよう、席替えをしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室、同じ造りになっているが使い慣れた物を持ち込まれたり、テレビを置いたり家族の写真を飾ったりしてその人らしい部屋となっている。</p>	<p>本人の生活上必要な物品は自由に持ち込まれている。自宅を使い慣れたスチール棚、仏壇など様々であり、写真などを飾る利用者もおり、居心地よく過ごせる様に工夫している。また、入居前に自宅訪問を行うこともあり、居室の様子を事前に見ておき、事業所での居室づくりに活かしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>能力に応じてバーを利用したり、シルバーカーや車椅子で移動されている。歩行立ち上がりの不安定な方は居室にもバーや立ち上がりの為のポールも取り付けている。不安やパニックになる前に、声かけ、見守りを心がける。日常行う行動については判りやすい掲示、案内などに配慮する。</p>		

V アウトカム項目(そらユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念に基づき、管理者・スタッフとも、思いを共有しつつ、日々の介護にあたっている。毎月の職員会議での話し合いで目標や課題を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣の公園への散歩を積極的に行い、公園の利用者の皆様とお話をする機会を多く持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	家族会等で自治会の方に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の時に議題として取り上げ、話し合いをし、サービス向上の貴重な意見として活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	高齢者福祉課には、頻繁に電話や直接出向くなどして、色々と相談し指導いただいている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の禁止、又その対象となる具体的な行為は施設内研修や職員会議などで周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法について職員会議での話し合いを行い徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	家族・地域の方にも案内し、権利擁護について詳しい方(講師)をお呼びして勉強会を開いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書に添って説明し、その場で理解納得していただくようにしている。十分説明を行った上で、納得の上承諾書も頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御意見箱を設け御家族が言いにくい御意見が聞けるようにしている。又面会時にも御家族の思いを聞けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は積極的に職員との話し合いをし提案を反映している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員会議や日頃の会話等から、職員の考えや思いを把握し、安心して勤務できるような環境を整えている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部から理学療法士を招き介護技術とその知識を得る機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>アーバンケア内の施設との交流により職員間の交流や施設内のサービスの向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき話しあっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居決定までには来所又は電話にり、家族が納得できるまで相談窓口を作り、不安を抱えたまま契約にならぬようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホームを家族が希望しても、面談をしてみても、入所より在宅が適当であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共ににし、日々の話の中で人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者ご家族とスタッフは家族的雰囲気でも何でも話し合える関係作りが出来ている。又必要な方は携帯電話を利用して頂き御家族との連携を保っている。遠方の御家族には月報や電話で状況を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親しい方との面接や電話なども自由にできるように支援している。囲碁のサークルに参加したりサークル仲間の方がほぼ毎日来て下さる方もいる。(コロナウイルスが落ち着くまでは自粛しております。)又時にはドライブで自宅の近所に行くなどしている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人が孤立しないようリビングの席並びなど、何度も検討を重ね、入居者同士のトラブルを避け、楽しく過ごせるような椅子の配置にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了された方の家族よりボランティアの申し出がある等、関わりは継続している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望・意向の把握に努めようと努力しているが、なかなか思いをくみ取ってあげることが出来ない方もおり、検討課題である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活環境を極力変えたくない為、馴染みの物を居室に入れたり、生活歴についても聞き、対応に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態に合わせ入居者のペースに合わせた生活を支援しているが、まだまだ有する力を全員が発揮できていない現状だが、残存機能を生かした支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングを基本に家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聞き取る事が難しい方もおられ、日々の対応で知り得た情報より、思いを酌んでの介護計画となっている方もおられる。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しに活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その方の身体状況・精神状態等に応じ、家族や入居者のニーズには出来る限り協力体制を取っている。(囲碁教室に通うなど)</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員・ボランティア、警察・消防には認知症対応ということで、緊急事態の為にリスト作りをして頂き協力体制を作っていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>内科・皮膚科・歯科の往診もあり、受診に行くことが難しい方も適切な医療体制で臨んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化にも状況により訪問相談等、24時間体制で連絡がとれる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院3ヶ月までは退居の必要はなく安心して過ごして頂ける。それ以上の入院の場合については早期退院に向けての情報交換等、医療機関と話し合いを持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の希望で看取りまでケアしている。家族と密に連絡を取り、家族もまめに面会に来られている。重症化した場合、終末期については主治医と施設・家族で話し合いを持ち三者で連携を保ち、方向性を同じくしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故に備えて緊急マニュアルをスタッフルームに掲示、それに従い落ち着いて対応するように伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの作成、消防計画による任務等の役割分担を明確にし、年二回の避難訓練を実施しているが、地域を交えての訓練はできていない。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報には外に漏らさないことを徹底している。入居者に対しては人として尊敬の念を忘れず、言葉かけや対応に配慮しているが、完璧とは言えず、カンファレンス等で、スタッフに向けて、注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活における希望等を尋ねたり、自己決定の出来る場を設けるなど考慮しているが、自分の思い・希望を表出することが出来にくい方もおられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・就寝時間・その他日常の活動についてもまず声かけにより入居者の意思を確認し介助するように心がけているが、時間に限りがあり職員主導になりがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思決定ができる方は化粧品等一緒に買い物などしているが、自己決定できない方は利用者の好みなど職員が把握するようにし支援している。又理容について2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器拭きなどは手分けして職員と共に行い定着している。又食事中も会話が弾むよう職員が中に入ったり仲の良い利用者同士を同じ席にするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の嗜好、食事量を把握し、配膳に工夫している。歯の状態、嚥下の難しい人には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は、食事以外の時にも、度々機会をつくり、水分量の確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来る所は自力で、出来ない所を援助する。義歯は就寝前に洗浄液につけ清潔を保つ。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人のパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。一人一人の能力に応じて介助を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操・レクリエーション・散歩により身体を動かす事、食事時、食間、入浴後の水分補給を心がける。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上で、トイレ誘導をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個々の曜日は決めていないが、時間帯はほぼ決まっている。入浴時は職員との会話を楽しんでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>睡眠パターンについては、職員 の方ではほぼ把握出来ている。 昼夜逆転の傾向の人やその他夜 間の様子については申し送り等 で職員間で情報を共有、カン ファレンスで話し合い、日中の あり方を検討し配慮する。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>処方箋に目を通し、把握してお く。服薬時は日にちと名前を職 員2名で確認をし、誤薬の無い ように徹底している。又ノート を作成し主治医に体調の変化の 報告をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。</p>	<p>レクリエーション、散歩等、声 を出したり笑ったり身体を動か したりという活動を日課の中に 取り入れるよう心がけている。 又、洗濯物の手伝い、食後の 片付け等個々の役割を決めてい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	<p>向かいの公園へ数人に分かれて 出かけている。希望者には近 くのお店に行ったり、ドライブ に行ったりするが、行ける人 に限られ、家族や地域の人に 協力を得る事はできていない。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>お金の所持に関しては、トラ ブルの元になるので、入所時 からお断りしている。しかし 買い物の楽しみを味わって いただく為に施設内でお店 を開き、お金の使う事の支援 を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使っている。個人的に携帯電話を預かったり、手紙のやり取りのお手伝いもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天候の良いときはなるべく自然の光や風が取り入れられるよう心がけている。リビングはいつも季節感を感じられるよう配慮している。又行事やイベントの写真を貼ったりビデオを見たりして思い出を会話に繋げている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんどの方が日中は、リビングやソファで過ごされているが、お部屋で過ごしたい方は、自由に一人の時間を楽しんでいる。友達関係の出来た方は、隣同士になれるよう、席替えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室、同じ造りになっているが使い慣れた物を持ち込まれたり、テレビを置いたり家族の写真を飾ったりしてその人らしい部屋となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	能力に応じてバーを利用したり、シルバーカーや車椅子で移動されている。歩行立ち上がりの不安定な方は居室にもバーや立ち上がりの為のポールも取り付けている。不安やパニックになる前に、声かけ、見守りを心がける。日常行う行動については判りやすい掲示、案内などに配慮する。		

V アウトカム項目(ゆめユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすずらん

作成日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	29	コロナの影響により外出支援や社会との繋がりが薄れている。	面会制限を緩和し馴染みの方との触れ合いを増やし、3密にならない場所への外出を増やす。	月報により面会制限緩和を報告した。隣の公園への外出も開始した。	達成した。
2	35	地域との連携を持った防災訓練が出来ていない。	コロナウイルスの影響がなくなった時に合同訓練が出来るよう協力体制を築き計画をすすめる。	地域との繋がりが薄れないようお互いが協力出来るような関係の継続と情報の共有。	半年後
3	36	入居者の皆様に対してだけでなく職員間同士でも互いを尊重した言葉掛け。	職員間同士の言葉遣いも入居者の皆様に影響を与えてしまうのでそういったことから改善する。	月に一度の職員会議で意識の徹底を促す。	1年後
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。